

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒190-0013
東京都立川市富士見町2-12-13 安藤ビルB1F
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@vj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2013年(平成25年)10月16日 水曜日

無料

第17号

毎月発行

創刊2013年(平成25年)10月16日 水曜日



大湯ストーンサークル

「埋もれた東北文化を掘り起こす旅」その⑤

「超古代遺跡やその痕跡から 古代東北文化を想像する」

大湯ストーンサークル、黒又山、十和田神社
の隠れた石組み、奥入瀬探訪の旅

ワクワクの取材旅

今回は特にワクワク感一杯の取材ミニ旅行だった。ひとつは初めての場所であることだ。昨年の東北六魂祭では盛岡で初取材、夏には青森でねぶた祭、弘前ではねぶた祭を見て、三内丸山遺跡にも行った。加えて、今年にかけて、遠野、北上、花巻では郷土芸能を堪能し

①大湯ストーンサークルと黒又山
これらの古代遺跡の意味するものが何なのかを考えてみる



5本柱建物跡

た。復興状況の取材では、釜石から北上して大槌、山田と足を伸ばした。しかしこれだけでは東北を歩いたというには足りない。さらに東北の奥に入り込むような取材をしたいという思いがあった。また、縄文遺跡は三内丸山だけでは不足で、ストーンサークルは必須である。三つ目は、大同二年(西暦八〇七年)に関連する場所に行きたいということ。東北の神社仏閣は大同二年創建が多いが、現実問題として信じて、実際の創建はもっと古はず。その痕跡と証拠を見てみたいということである。

最後は、最近勉強を始めたレイラインに関連する遺跡巡りをしてみたいということがあった。レイライン理論では、古代の遺跡が一直線に並ぶというが、そのラインの一部を実感してみたいと思ったことがある。これらはすべて、埋没した東北のアイデンティティを探りあてる活動の一環



縄文人は計算機で計算？



小型計算機用土版？



通称日時計

として位置づけている。当初考えた訪問候補地は、二泊三日のスケジュールにはめ込むには多すぎ、泣く泣く今回の取材の目的明確化でかなり絞り込んだ。大湯ストーンサークル

縄文についてはもともと興味があり、土器も土偶も三内丸山遺跡も、みな大好きである。縄文考古学関連書籍もいろいろ読んだし、最近学会にも入会した。しかし、考古学からのアプローチのみでは縄文人との接点が希薄に感じられてならない。たかだか一万六千年前の同類であり、現代人とそう変わらないと思うのだが、毛皮をまとった縄



土偶



黒又山



石斧と弓矢

大湯のストーンサークル訪問にあたっては、事前にボランティアの方をお願いし、日頃の疑問について質問攻めにするのを考えた。一時間半もお付き合いいただいたのだが、一番面白かったコメントは「縄文時代は世界の歴史上でも稀有なことに一万年も平和な時代が続いた。でもその間に縄文土器しか産み出せなかったことに少しがっかりしてい



山頂の神社



巨岩だらけの古い場登り道



参道を迂回させる溶岩の岩山

「いいこと」だと思つていたが虚を突かれた。確かに大陸では戦争続きで、のんびりしている余裕なく、武器を中心に、関連文化も発達したに違いない。その差が後代の日本に大きく影響したかもしれない。

また、この遺跡は太陽信仰によるものとも言われているが、現地で見ると、太陽の動きを含めた自然全体の活動や生命循環思想を表現したモニュメントに思えてきた。

また、この遺跡に関する伝承も皆無だったことにも驚いた。発見されなければ



十和田神社拝殿



十和田神社 巨岩の上の本殿



十和田山青竜大権現



熊野神社

② 十和田神社 大同二年創建というがもつと古くから あった証拠は古い石組である

標高二八〇メートルほどで、山頂に神社があるというので、迷いながら昇り口を探して登った。あまり高くないので日頃運動不足の身でも大丈夫だろうと高をくくつて登り始めたが、道らしき道がなく、木の根が張り出していて歩きにくい。ピラミッドというからきちんとした道があるかと思ひ込んでいた。蜘蛛の巣だらけ、おまけに蚊がいてつばい、鳥の鋭い鳴き声にも似た野生のリス三匹ほどの歓迎を受けた。なんとか頂上まで辿りつくが、神社は閉まっていた。最近誰も来た気配がない。パワースポットらしい気配もなかった。

あとで調べたら、ここがピラミッドかどうかより、この山を含めた近隣の山々が形成するラインが何かを意味しているようだが、その方に興味は湧く。これから調べてみようと思う。

黒又山でてこずって時間超過したので、あわてて十和田神社へ向かう。連休中の人出が多い。十和田神社はその喧噪の奥にある。鳥居をくぐって、目的の古い石垣を探す。参道の左側にそれらしき石垣。しかし、人工の石垣なのか、自然に溶岩性の岩が割れて石垣に見えるのか判別できない。折衷なのかと納得。とすれば古い石垣は、創建の大同二年以前のものに違いない。ここでも「大同二年」が登場する。

拝殿に進むが、奇妙な配置。途中に巨岩だらけの小山があり、それを避けて参道があるように見える。これから参道が過ぎて有名な「古い場」への道に登る。熊野三山で修行をした南祖坊が湖の主であった八郎太郎との争いに勝ち、新たな主となり、その後南祖坊は古い場で入水したという伝説がある。この伝説もすんなりとは受け入れがたい。勝者はなぜ入水したのか。伝説に込められた古代の史実追求に好奇心が刺激される。

「古い場」への登り道は荒々しい巨岩が突き出て曲がりくねっている。女性が登るのを怖がっている。道なき道。登る距離と高さはさほどではないが、いきなりの巨岩群出現。登り終えて少し平らな分があるところにまた巨岩があちこちに転がっている。少し先に「古い場」への鉄の階段。その階段を下りても目的地へは通行止めで階段を下りず。下りて再び拝殿へ。参拝

を終えてから、拝殿の周りを一周。裏の本殿の土台が大きな岩だった。巨岩の上に建った本殿。巨岩信仰で龍神信仰の場であったのだろうか。延喜式で統一される前の十和田神社の信仰形態が垣間見えた気がした。

「大同二年」という東北古代史をおおう壁を引きはがし、拝殿や本殿建設前の姿を想像すると、原始縄文信仰が出現するだろう。調べてみる必要がある。

奥入瀬溪流
当初、大石神ピラミッドも訪問しようとしたが、黒又山で人口ピラミッドというものが分かったような気がして、そこには行かず、奥入瀬溪流に切り替えた。観光客でいっぱい。

この溪流にも幾多の歴史があり、もつと流れが荒々しい時代もあったかもしれない。それが十和田の龍神信仰の一部を形成していたのかもしれないと感じた。

レクタカー返却のため帰りを急ぎ、山道を通った。途中で二ホンカモシカに出会う。熊に注意とあつたが、カモシカに入れ替わった。

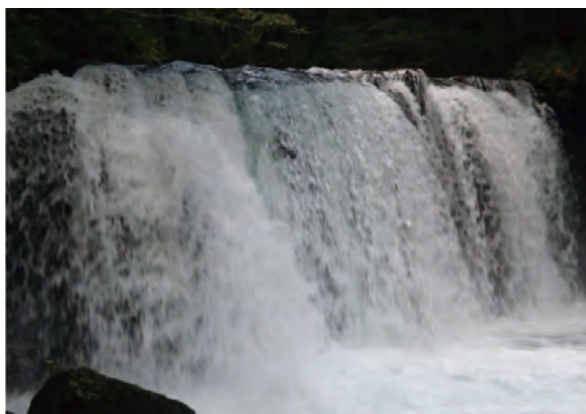
今回の取材を終えてからは古代東北掘起しの旅により一層熱がこもってきた。まるで今回の取材地にひそむ何者かに導かれ、古代東北の謎の探究を続けよと言われているようだ。産鉄民や古代東北と関係

の深い物部氏を調べていたら、奈良の三輪にある大神(おおみわ)神社の主祭神が大物主神で蛇神だった。十和田伝承では、南祖坊は竜に変身し、敗れた八郎太郎は大蛇に変身している。この変身譚と物部氏との接点が想定される。さらに物部氏を祀る異様な形の秋田の唐松神社、秋田「物部文書」と物部氏ルーツにつながっていく。この旅はまだ始まったばかりである。



岩を伝う滝

③ 奥入瀬溪流
この流れは龍神そのものではないか



轟音・水しぶき



曲がりくねる流れ

放射能問題を福島に閉じ込めるな! 東北は今こそ福島問題を共有せよ!

「東北学」提唱者—赤坂憲雄氏の講演に触発されて

赤坂憲雄氏講演を聞く

九月一七日、豊島区民センター・コアいけぶくろにおいて「震災・差別・ケガレ」—3・11後の「東北学」と題した赤坂憲雄氏の講演があった。前々から、赤坂氏の講演をじかに聞いてみたいと思っていたので、案内が出てすぐに申し込んだ。さすがに著名人の講演で、会場は定刻到着時にはすでに満席だった。

「東北学」提唱者

赤坂憲雄氏といえば、「東北学」の提唱者であり、その「東北学」とは、埋もれた東北の歴史や文化を掘り起こす活動である。

氏はまた二〇一一年初めまで東北芸術工科大の教授を務められるかたわら、大

学内の「東北文化研究センター」所長も兼任された。ここは東北の地から日本を「芸術立国」として導き出す「東北ルネサンス」運動の中心として活動してきた。センター設立時から発行している機関誌「季刊東北学」は特に有名である。しかし、上記職務を辞した直後の3・11に大災害が東北を襲った。東北研究に何十年も携わって来られた氏にとつてはじくじたる思いがあったことであろう。

福島は東京電力の植民地?

—業界常識を問う

講演のタイトル名からイメージしたのとはまったく異なる刺激的な話から講演開始。それは福島原発問題。電力業界で、東京電力が「福島」という拠点を持つことがどう語られているか

の話であった。いわく、電力業界ではこの現実を、「東京電力は東北に《植民地》を持つている」と平然と語る。そうだ、これを聞いたら、福島県民だけでなく、ひいては東北住民はどう感じるか、想像に難くない。

そして東京電力の福島へのあきれ果てる一連の対応をあらためて考えてみれば、このような異様な感覚を保有しているからだと思いに納得できることがある。

引き合わない契約

原発誘致に絡むお金の問題があり、だから仕方なか

つたのだという風潮も極一部にある。しかし、誘致に伴い福島県に落とされたお金は三〇年間でわずか三千億円という。(間接的な民間需要は別のこと)しかし、福島県全体がこの恩恵に浴している訳ではない。たとえば原発から半径四〇キロ圏周辺にある飯館村にはたったの数億円。対するに除染費用は三千億円も必要だという。これは対等な関係者間契約とは言わず、まさに「植民地への屈辱的な扱い」と言える。これが3・11後に判明した悲しい実態である。

福島に汚染を閉じ込めようとする空気

これにとどまらず、放射能汚染を福島に閉じ込めようとする空気もある。特に最近の政治家などの発言でこの傾向はより鮮明になっている。「放射能汚染で住めないのならば汚染物質を福島に集結すればいい」と。

そして赤坂氏は、この空気が「福島への差別」と位置づけるとより明瞭に図式が見えるのではないかと投げかけている。

そしてこの「差別」とは「ケガレ」という差別意識から出発しているのではないかと民族学者の立場から指摘されていた。

「ケガレ」、「被差別部落」とは何か

氏は「ケガレ」には三つの意味があるという。ひと

つは「死」、次に「お産や月経」、三番目に「動物の肉や皮を扱うこと」という。この三要素が日本の差別意識を形成してきたという。具体的には、「死のケガレ」を回避するため墓を住居から遠ざけてきた歴史がある。これは弥生時代から始まる慣習。また「お産のケガレ」を回避するため「産屋」という住居から離れた場所に仮小屋を作る慣習。そして「動物の肉や皮を扱うケガレ」は「被差別部落」を作り隔離することで回避してきた歴史があるという。

東北には差別やケガレが極端に少ない

このケガレ文化、そこから発生する被差別部落への差別は、関東以西、特に西

日本に色濃くという。縄文時代には前記のケガレ文化はないようだ。死を遠ざける風習もないし、幼児の亡骸などは住居内に穴を掘り埋葬した。お産のための産屋の慣習もない。動物の肉や皮を扱うことは、狩猟が日常にあふれていた縄文文化では身近なことであり、そこから差別などというのとは考えられない。

その縄文文化が東北には長く継承され、動物の肉や皮を扱うことに「ケガレ意識」などほとんどないということだろうという。

また、東北の人間は「ケガレ」意識を持たないが、西日本では強烈で、したがって被差別部落問題の深刻

さは東北の風土からは実感として捉えにくい。そのため数々の深刻な誤解も生じると語っておられた。

福島と被差別部落扱い

こうして、福島第一原発問題を発端とする福島への差別意識は、単なる放射能汚染問題関連ではなく、裏に「ケガレ」を発端とする

被差別部落への差別と同根の抜きがたく染み込んだ差別が感じられる。そのためか、ガレキ処理拒否へのヒステリックな対応は確かか西日本で目立った印象だ。

この故なき差別意識は根絶すべきである。純粋に放射能汚染問題としてのみ対処すべきである。そうしたな

いと福島を捨てる「棄民」がどんどん加速する。

遠野祭り 2013 昨年が続いて2回目 遠野郷八幡宮も訪問

昨年が続いて二回目の「遠野まつり」参加だった。昨年は初訪問にもかかわらず友人も出来た。さらにまだ見ぬ友人たちもいる。何とかして馳せ参じなければと9/21早朝、始発電車で遠野に向かった。

十時過ぎにJR遠野駅着。駅を降りてすぐ向かったのは「遠野郷八幡宮」。ここは創建が文治五年(一一八九年)で、遠野の総鎮守であり、境内は広く、例大祭には近在の多くの郷土芸能が終結する場であり、歴史を感じさせる。

いつもこの神社の例大祭に行きたいと思うのだがなかなか実現しない。残念ながら今年も一週間前に例大祭が終わっていたが、思い切った祭りの終わった神社におじゃました。境内を廻りながら、こころし踊り、そこでは流鏝馬があったのかと想像した。来年こそは必ず来ると誓った。

たまたまこの日は宮司さんにも、またお嫁さんにもお会いできた。思い切った

行ってよかった。今回の遠野訪問は、夕刻に盛岡市に所用があるため、午前から夕刻までの六時間強の滞在で、初日の夜の部も二日目も見る事ができない。特に、昼とは異なる夜の部のし踊りの激しい舞いを見ることができないのが残念だった。

とにかく時間が短いので、効率よく市内を回り、パレードの舞いや門付での舞いを見て回らなければならない。

気がかりだったのは、祭スケジュールを見ると、昨年知り合いとなった佐比内し踊り保存会の佐々木さんにお会いできない可能性が高いこと。でも市内の門付でひよつとしたら会えるかも知れないと思いついた。そうしたらパレードに参加されている佐々木さんを発見し、お互いに姿を確認して握手。佐々木さんもひよつとしたら会えるのではないかと思っていたという。

あらためてご縁を感じた。また、昨年昼食を取った「うめのや」にもおじゃました。入るなり新聞寄稿者の奥羽越現像さんとそのお仲間にはつたり。ほんとうに奇遇であった。もちろん「看板娘さん」にも会えた。

昨年は完全によそ者であったが、今年はほんの少し「関係者」に近づいたような気がするが、まだたつたの二年目である。



福島第一原発と ダークツーリズム

福島第一原発を 観光地化？

哲学者の東浩紀氏が「福島第一原発観光地化計画」を提唱している。福島第一原発の事故跡地を将来的に観光地として活用していくという提案である。今すぐにといいことではなく、除染が十分に進んで一般の人が防護服なしに原発から数百メートルの距離まで安全に近づけるようになると予想される二五年後を想定して、その二〇三六年の福島第一原発跡地に、どのような施設を作って、何を展示し、何を伝えていくべきかを今のうちから検討し、そのビジョンを中心に被災地の復興を考えようという主旨である。

チェルノブイリの現在

一昨年一二月に早くも当時の野田首相が「福島第一原発事故が収束した」と宣言したが、最近の汚染水流出問題を見ても、「収束」したと思っている国民はほとんどいないのではないかとと思われる。そうした中で、原発を観光地しようという提案はやや突飛で、何かの皮肉として言っているのではないかなど、その真意が様々な憶測を持って捉えられてしまう余地もある。

執筆者紹介

大友浩平
(おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagmas5/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ohtomo

しかし、よくよくその提案に耳を傾けてみると、別に皮肉でも冗談でもなく、東氏は極めて真面目に本気でこの提案をしているということが分かる。

東氏が福島第一原発の事故跡地の観光地化を提案した背景には、チェルノブイリの現状があるようである。福島第一原発の事故を受けて、事故から二七年が経ったチェルノブイリを訪れてみた氏の目に映ったのが、まさに「観光地化」された現地の様子だった。ここでは、日本で伝えられ

「観光地化」とは

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

「観光地化」とは

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

なぜあえて「観光地化」が必要なのか。東氏は「チェルノブイリ・ダークツーリズム・ガイド」の中でこのように述べている。「私たちの多くがチェルノブイリを『死の町』という語として用いられるようになった言葉だが、最近では「ツーリズム」を「観光」とは分けて用いられるケースが増えてきている。しかもそれはいわゆる従来型の観光旅行とは異なる、様々な体験を通じて学びのある旅行を指す傾向がある。例えば、エコツーリズムやグリーンツーリズムなどがその例である。

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

被災地域で 始まっている ダークツーリズム

もちろん、一足飛びに観光地化することは現実的ではない。日本におけるダークツーリズム研究の第一人者である井出明氏が「ダークツーリズムの場合、現在でも当該観光対象との関係において、心の傷が癒えていない人々が存在する点には注意が必要である」と。その上で「観光のプロデュース手法としては非常に高度」と断りつつも「現実にはまだ苦しむ人がいる観光対象に対してどのように接近し、その傷ついた心を癒めることなく、我々が学びを得るような観光を考案する」ことが必要だと指摘する。

「観光地化」とは

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

た方が時間的には早いのではないかという状況である。このように、浜通りが分断されていることによって生じている悪影響について、福島第一原発事故の問題の中であまり関心を持たれずにいるように見えるのは非常に残念なことである。これまで常磐線を経由していた貨物輸送は、東北本線経由に振り替えられているというのだが、人の交流について言えば、かなり制約を受けているのではないだろうか。

私も一つ提案をしたい。現在、福島第一原発によって寸断されているJR常磐線と国道6号線の「地下化計画」である。事故後、これら福島県浜通りの大動脈が福島第一原発周辺で途切れてしまったことで、浜通りは北部と南部とで分断されることになってしまった。これによって地域の一体性が著しく失われてしまっている。唯一、常磐自動車道だけが、除染をした上で全線開通に向けて工事を進めるということになっているが、その肝心の除染作業が進まず完成も当初見込みよりずれ込みそうということがある。

JR常磐線と 国道6号線の 地下化を

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

「観光地化」とは

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

者は真上にある原発に思いを馳せながら、原発事故に関する学習をすることができると述べている。東氏は先の書籍でこうも述べている。「福島第一原発事故は世界的な問題なんです。多くの人はそれを過小評価してしまっている。(中略)この事件を逆手にとって、原発事故と復興を『コンテンツ』として世界に発信していくぐらいの気概が必要です。『フクシマ』を暗いイメージで固定化させるのではなく、明るいイメージを持たせなければならぬ。(中略)」

「観光地化」の提案はまさにそのために一石を投じた形になったが、賛成だけでなく反対も含めた議論の中で、福島を取り巻く状況が忘れられることなく、今後も考えられ続け、そうした中から福島が活性化していく方策が次々と生み出されていくことを期待したい。

議論を通じて 福島活性化への 道筋を

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

「観光地化」とは

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

「観光地化」とは聞き慣れない言葉ではある。特に「ダーク」という言葉が印象的である。これは、災害被災地や戦争跡地など、人の死や悲しみを対象とした旅行を指すとされる。先述のチェルノブイリもそうだが、ポーランドのアウシュヴィッツ、ニューヨークのグラウンド・ゼロも、ダークツーリズムの対象地としてよく知られている。日本では広島の大原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔が、それに当たると言える。東氏の言う「観光地化」もこの文脈で捉えるべきものである。いわば福島第一原発事故が本

連載
むかしばなし

芭蕉のむかしばなし

第五話 私に 石を預けよ

「私どもは西暦一九二八年、昭和三年六月一日より、こ

こへ凶らずも参りました。」

「どちらから参られたのか、と泰衡に問われ、長里国八郎は改まって答えた。理解

や信用が得られるとは到底思えないが、虚偽は徒勞であり、躊躇するより率直である事が肝要であるう、と

往年の教師は判断していた。若たち三人の客人或いは虜囚は、榴岡の陣幕の内側、



奥羽越後現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

つの近臣のみ。奇妙な事に一方は見るからに屈強な武人だが、もう一方は泰衡以

上に細身で、鎧に着られているような文弱めいた風采の男である。

「しようわ、とは元号か。今は文治である。せいれきとやらで言う、今は何年なのだ。」

少しの間、目を細めて黙っていた泰衡が発した言葉に、三人は驚いた。少しも困惑する様子なく、答の意味―即ち目の前の人物が時間を越えて来たという事実―を理解しているように見えるのだ。長里が答える。

「せ、西暦一一八九年、のはずです。」

「となると、八百年近くか。八百年も先の世から、ここさお出でという訳だな。」

屈強な側近は目を白黒させているが、もう一人は人差し指を唇に置いて何か考え込むようにしている。「信じなされるのか。そげな訳がない。」

三人は呆気にとられるばかりだ。

「八百年先、平泉は存在しているものだから。」

泰衡の静かな問いに、客人の言葉は詰まったが、しばしの静寂を破ったのは少女であった。

「八百年後より、今の心配をするべきでは。」

長里の「これ」と諫める声したが、構わず言い切っていた。源頼朝の軍勢が押し寄せてきましよう、と。「存じている。」

泰衡はしかし、またもあつさりと言つてのけた。「伊達口さ二万、両海道さ一万すつ。この兵力で十数万の鎌倉軍に勝てる訳がない。」

「な、何と。ご承知の上であなた様は・・・」

膳が三客分、運ばれてくる。召し上がれます。」

「そうおつかない顔ばなさるな。召し上がれます。」

茶湯に、どうやらゆべしのような菓子らしい。山浦はささま手をつけ、長里は繁々眺めるも、若の気は

「何故・・・何故きちんと戦をされないのですか。」

「平泉が歴史にその名を残しているならば・・・それがいかなる意図で築かれた都、そして国であったか、伝わっているだろうか。」

泰衡の答も、また問いであった。長里が答える。「奥羽を現実の浄土、浄界とする事？」

「左様。二度と戦の禍は被らぬ地とする事、それが曾祖父・清衡の悲願であった。戦は極力避ける事が、後継の務めと信じてきた。」

「だから、義経様を討たれたのですか。」

若の怒を含んだ一言に、泰衡の目が鋭く閃いたが、ニヤリと混えた不適な笑み

「ほう、見事八百年後まで伝わっておるな。」

「御館・・・」

側に控える屈強の武者が、何故か哀しそうに呟く。「貴殿がいくら戦争を避け

たところで、奥州の戦が止む事はありません。武士の世は、私の時代で六十年前に終わりましたが、その時も戦は無理矢理に仕掛けら

れて、またも奥羽は蹂躪されたのです。」

少女が一貫して明瞭ながらも、やや興奮気味になつてきたのを見て、長里がその肩を軽く叩いてやる。若は思い出した。ここへ来る前の車掌らとの話し合いの際、長里が言った「歴史を

変えるような事をしてはならない」という事。どんな些細な行為でも、誰かの運命を変える可能性がある、と。しかしそれならば、自分達の乗る汽車がこの時代に迷い込み、更にその乗客

数人が現地の武装集団に拉致されるといつ時点で、既に相当の歴史の変更が為されているのではないか。自分達だけがいくら注意深く

なつても、もはや避けられぬのではないか。

「左様か。やはり奥羽という地の宿命なのかも知れぬな。」

少し声を落とす泰衡だが、側近の武者はと言えば、「武士の世・・・そげも長く続くのだから。」

と啾然としている。小娘に出し抜かれるままにはなるまじ、と思つたか、山浦琴洋が代わって話し始めた。

「藤原様がお去りになった後の奥州はすな、それはそれは、貧しい国と成り果てまして。」

溜息をつき、力なく首を振る、芝居がかった感じ。「土地に合わぬ稲なぞ作られないかと、若は案ずるのだするわ、戦で田畑、山林悉

く持つていかれるわ、男は兵隊、女は女郎に取られ尽くすわ。平泉は無尽蔵の黄金で世の頂点を極めたと謳われておるが、まるで嘘のような話ですわ。」

少々、誇張はあるが止む無しと思ってしまうところに、奥羽の深刻さがある。

「だが、だからと言つて逃げにたずないなされとは申しませぬ。結果は同じでがんしょう。ただ、もつと上手くお逃げになつた方が・・・」

「無礼な！」

泰衡の側にいた屈強の武者が立ち上がり、腰の太刀に手をかけたが、大将がすつと手を上げて制止した。「手前は逃げぬ。平泉で待つのだ。」

若達は顔を見合わせた。もう一人の、文人風の側近が初めて口を開く。「そもそも、御館は前線さ

お出でのもりだった。それを国衡様がこの先行かせぬよう、兵を以つて押し留められたのだ。」

驚く三人に、泰衡が引き継いで語る。「手前に平泉さ戻り、頼朝

を出迎える準備はせよと言つてな。名取の川の対岸さは、兄の兵がいて情報もく大きく見え、まるで別人のようだ。

「そやつ、その石にふさわしくない。」

「石を置きに行く」一団が南の川の対岸にあるという向山で兵に遭遇するのではないかと、若は案ずるのだ

「我を使え。来るがいい。」

喜善の身体がぐりと踵を返し、森の奥へ歩いていく。「この御仁・・・憑依されておられる。」

芭蕉は気づいた。そやつ、とは芭蕉が選んだ櫓の樹の事なのだ。立ち上がり、喜善の後を追っていく。賢治

達残りの者もついて行くと、目の前に寒冷地には珍しい、椎の巨樹が姿を現した。「我に石を預けよ。我は冬

も葉を落とさぬ。あの櫓の守は青びつき、我が守はダダスコである。」

意味がよくわからないが、つまり自分の方が優れている、と言いたいのだろう、と純三は思った。

「実に、貴殿は素晴らしい。しかし、一旦決めた事は覆せませぬ。」

芭蕉の答だった。芭蕉の根元へ駆け戻り、芭蕉は再び掘り始める。「全く、信じられません。宮澤さん、何故お判りになつたのです。」

今純三がすつかり呆れか

えつた様子で尋ねる。「喜善さんの背中に、翼が

見えましたから、ははあと

思ひまして。どうやら仙臺

を囲む六山、元々かなりの

曲者揃いのようなですな。」

賢治の目上げる櫓の枝に、青蛙らしき姿があつて、金色の眼で一行を見守っているようであった。

「次回予告」

一体、残りの山にはどんな妖怪(?)が待ち受けているのか?一方、太めの山浦

氏が隠し持っていた、ある物とは?

シリーズ 遠野の自然 「遠野の祭り」 遠野 1000 景より



鎮守の祭り(駒形神社)

今回は三回続いた「遠野の花々」シリーズから大きく離れて、「遠野の祭り」を取り上げてみた。
とはいえ、「遠野の祭り」は「遠野の自然」ではないので、テーマから外れているのではないかと声がかかってくるが、「祭り」に焦点を当てるのでは

なく、「遠野の自然のなかに溶け込む祭り」を取り上げたので、シリーズの趣旨からは外れていないと思うのでご容赦願いたい。
また、「遠野を題材にする以上、「遠野の祭り」に触れないのはかえって不自然であるということもあつて取り上げた。



祭りの日の早朝 早池峰神社



9月15日(八幡宮)

この試みが成功しているかどうかは読者のご判断にお任せするが、遠野の自然や風物のなかに溶け込んでいる祭りというものが浮かび上がってくるような写真を中心に掲載した。
たまたま今回は、九月二一日と二二日に開催された「遠野まつり」(取材記

事(3面))とダブる印象だが、アングルを変えてみたので、その違いがお分かりいただけるものと思う。むしろ、同じ「遠野の祭り」を取り上げても、アングルを変えるとこんなにも違った様相を見せるのかということも分かっていただけただけらという思いもある。



お通り 塚澤神社

遠野の祭りは大きく分けて、各地域にある神社で開催される「例祭」や「例大祭」をはじめとする神社主催の祭りと、毎年九月中旬に開催される「遠野まつり」はじめとする遠野市全体で運営する祭りがある。前者は神社主催であり、後者は市主体という点が大きな違いである。

双方ともに、市民が参加し、楽しむ祭りであるが、「遠野まつり」は遠野にある祭りがすべて終結する全体祭りという印象で、遠野関係者以外の外部者が見学しやすい。他方、神社主催の祭りは神社に奉納するというのが主体であり、氏子や地域の住民主体で、外部者は比較的少なく、いたとしても郷土芸能研究者やマニア等が多いと聞く。

遠野の祭りは大きく分けて、各地域にある神社で開催される「例祭」や「例大祭」をはじめとする神社主催の祭りと、毎年九月中旬に開催される「遠野まつり」はじめとする遠野市全体で運営する祭りがある。前者は神社主催であり、後者は市主体という点が大きな違いである。

どれもすっかり遠野の自然のなかに溶け込み、自然の一部と化していると言っても過言ではない。そこには観光的要素は一切ない。これらは、親から子へ、孫へと、古くから代々伝承されてきた郷土の芸能であり、「おまつり」という言葉からはみ出してしまいうなほど遠野という土地にしっかりと根ざして、土俗的な匂いさえる。まさにその土地と生活に根ざしたまつりといえる。



鹿踊



鎮守の祭り(菅原神社にて)



舟っこ流し 舟に火が入る

有備館駅探訪 (宮城県大崎市) 古代東北の「砦」であった伝統が いまも息づいている

- ① 中鉢美術館
- ② 竹工芸館
- ③ 森民酒造
- ④ 有備館



日本刀の古刀を展示の中鉢美術館



鉄文化の北方伝来説の根拠となった
佐藤博士の偉業を称える碑

古代東北史の入り口
以前、宮城県北部一帯は東北古代史を発掘していく上でも興味深い地域であると書いた。
それは、大和朝廷の東北侵略にあたり、侵略側の朝廷とそれを阻もうとする蝦夷勢力の拮抗する場所がこの地域であり、その攻防戦は長期に及んでいる。蝦夷制圧のための朝廷側拠点である多賀城は県中部でここからは少し離れており、北部は攻防最前線だった。さらに時代を遡れば、紀元三―四世紀あたりと思われる古墳もこの近辺で多数発見されている。

また、この地域一体にはいたるところに「たたら製鉄」の痕跡が残るが、なぜ鉄の需要がそれほどまでに急増したのか、その原因にはとても興味が湧く。
その「たたら製鉄」からは刀が作られた。反りのある日本刀の原点はこの近くの玉造と月山、一関近辺の舞草で生産され、すぐ近くには遺跡も残っている。

埋もれたままの歴史
こうした歴史や遺跡等はほんの一部で、掘り起こせばどんどん出現することだろうが、大々的な掘り起こし、かつ、今年初め、大崎市出身のアーティストの姉

しの話は聞かない。
また、参考となる文献も少なく、史実を辿るすべは非常に限られている。
さらに、アテルイ敗戦後完全に大和朝廷の支配下に入ったあたりからは、地域伝承も抹消されたようであるからなおさらである。おまけに、こうした研究をする学者も少ないようだ。

探索開始の環境整備
筆者はこの宮城北部をいくつか詳しく探索したいと思っていたが、なかなか時間が取れずにいた。
しかし、大崎市岩出山の有備館にある中鉢美術館という強力な拠点ができた

結果、この地域に関する古代の歴史は、何層もの堆積を形成しながら、地中深く埋もれたままである。
その意味で、岩出山、有備館は、埋もれた東北古代史の入り口ともいえる。

ここに前回訪問してから半年以上経過している。筆者はこの中鉢館長が会長である「舞草刀研究会」の会員であり、つい先日、会員向けの研究会の案内が来たばかりであった。月山近辺の鍛冶場遺構訪問は行きたかったが、諸事情でやむなく断念した。

中鉢美術館の館長歓談
訪問日はちょうど館長さんのお一人番をされ、他に見学客もいなかったので、約一時間、機関銃のようなスピードで情報交換した。
当然鉄の話が先で、そのときは驚くべきことに縄文時代後期から弥生時代にかけての製鉄の話だった。

指先ほどの鉄ならば、竪穴式住居の囲炉裏でも製鉄は可能だったという話に驚いた。日常使いの鉄製用具を作るには十分で、数回も行えばある程度大きさの用具も可能である。良質ではないが十分使える。発掘土器から鉄の痕跡が出ているが、研究者は無視していることに憤慨されていた。

次に、今年八月に話題となった「オールドス式短剣」のこと。この研究会では、刀は朝鮮半島経由だけでなく、北方経由もあったと主張し続けてきたが、ようやく学会も認めざるを得なくなったと語っておられた。
また、訪問前日に行った大湯のストーンサークルの話もした。館長は、この遺構は生命循環に関係するという独特のストーンサークル論を展開。詳細は省略するが、筆者も現地を訪問したばかりで同感する。

館長との時間はいつも短く感じられる。来年の研究会ツアーは玉造鍛冶場遺構めぐりで、それに参加することを約して別れた。

岩出山竹工芸館
筆者は竹工芸が好きである。前述の姉嬢氏に、岩出山では竹工芸が盛んであり、工芸館もあると教えてもらったので訪問。
しかもここを訪問する直前、同郷の知人からこの竹工芸館の製品ラインアップを紹介されていた。もう訪問するしかない。
竹工芸館に入ると、数名

の職員が無言で竹製品を製作中。声をかけるのはためらわれるほど静かで、陳列されていた作品を許可をいただいで撮影していた。
撮り終わった後で何もしやべらずにここを離れるのも変だと思い、姉嬢氏に教えてもらっておじやましたところをお話した。そうしたところ、若い職員さんが即座にタブレットで検索して、「知っている」とのこと

とだった。話がつながった。筆者が「東北復興」という電子新聞を発行していること、出身が近くの涌谷町であることを伝えたところ、一挙に打ち解けた。
東松島出身の女性職員から、3・11の被災の話も聞くことができた。有備館は津波被災体験者がいることを想定していなかったが、県内には広範囲に被災者が



竹工芸館作業風景



さまざまな竹の作品



竹アート



森民酒造



店内



酒器などの陶芸作品

極的にPRすべきだと思っ
たし、こうした伝統工芸を
この先も確実に伝承してい
って欲しいと願う。

森民酒造の訪問

姉齒氏から紹介されたの
は他にもあり、森民酒造と
いう酒蔵とその森泉とい
うお酒だった。

筆者は「三陸酒海鮮会」
で大分宮城の酒には詳しく
なつたと思っていたが、こ
の森泉は知らなかった。

あとでいろいろ調べたと
ころ、この酒蔵の蔵元の森
民氏氏はたった一
人で仕込みから仕
上げまでこなして
いるというのではな
いか。しかも百年
ほど前からの設備
を丁寧にメンテナ
ンスして使用して
いるという。

蔵元はいなかの
酒と謙遜なさる
が、その時求めた
森泉純米は濃醇甘
口でなかなか味わ
い深い酒である。

蔵元はまた陶芸
もたしなまれ、酒
器も店頭で販売さ
れていた。また敷
地内には昭和レト
ロ館があり、昭和
の時代に活躍した
手押し式の消防車
やステレオ、時計
などが陳列してあ
る。多趣味な蔵元
である。



池とあずまや



有備館正門

被災した伊達家有備館

伊達家有備館とは現存す
る日本最古の学問所であ
る。惜しくも3・11で被災
し、建物にはシートが被せ
られていた。しかし廻遊式
池泉庭園は無事でとても洗
練された庭園であった。

前述の通り、有備館近辺
は東北古代史の入り口であ
る。ここを起点にして、こ
れから本格的に「古代東北」
の地層を一段ずつ降りてい
くことにしようと思う。

東北地ビール紀行

その③ 岩手県篇

全国一のホップ生産県
個性的な地ビール醸造所5ヶ所

by 大友浩平

ホップ生産日本一の 県の地ビール

岩手県は知っての通り、
都道府県では北海道に次い
で大きく、四国に匹敵する
面積を有する。第一回目に
も触れたように、東北は全
国のホップのおよそ98%を
生産しているが、岩手県は
そのうちの約40%を生産す
る全国一のホップ生産県で
ある。

その岩手県には現在五つ
の地ビール醸造所がある。
とりわけ県庁所在地の盛岡
市には二つの地ビール醸造
所がある。一つひとつ紹介
していこう。まずはベア
レン醸造所 (<http://www.baerenbier.com/>)。ドイツ
から移設した約一〇〇年前
の醸造設備を用いて、伝統
的製法で作るクラシックス
タイルのドイツビール「ベ
アレンビール」が好評の地
ビール醸造所である。その
名もズバリの「クラシッ
ク」、「アルト」(ドイツ語
で「古い」の意味)、そし

て「シュバルツ」(ドイツ
語で「黒」の三つが定番で、
これに季節限定のビールが
一〇種類ほどある。

ベアレンを見てみてすこ
いなと思うのは、とことん
地域密着を志向しているこ
とである。だから、一関の
全国地ビールフェスティバ
ルや仙台のオクトーバー
フェストなど、ビールのイベ
ントに出展することもほ
とんどない。その代わりに
盛岡市内ではあちこちの飲
食店でベアレンのビールが
飲める。徹底的に地元へ浸
透しようという意思が感じ
られる。

飲める店が多いだけでは
なく、「ビール文化」その
ものを広めようとする努
力も怠らない。盛岡市内の
飲食店で「ニモクビール
会」という、ベアレンのビ
ールや海外から仕入れたビ
ールを飲めるイベントを毎
月第二木曜日に開催して
いる。盛岡市内には「ピ
アパブ・ベアレン材木町」
(盛岡市材木町731、TEL
019-626-2771)、「ア
ババー・ベアレン中ノ橋」
(盛岡市中ノ橋通1-21、
TEL019-651-6555)とい
う二つの直営店があるが、
これらの店舗でもそれぞれ

「ピアパブビール会」(毎月
第三木曜日)、「中ノ橋ビー
ル会」(毎月第一火曜日)
というイベントを開催して
おり、ビールファンへの拡大
に務めている。

盛岡市内にはもう一つ、
地ビール醸造所がある。盛

岡の地酒という必ず名前
の挙がる蔵元「あき開」の
敷地内に「ステラモンテ」
(盛岡市大慈寺町10-34、
TEL019-624-7206、<http://www.asabiraki.net.jp/stellamonte/>)という多
国籍レストランがある。こ
こでは、ベルギーの白ビール
スタイルの「ホワイトステ
ラ」とチェコのピルスナー
タイプの「ステラピルス」
という二種類の地ビールを
醸造している。他にやはり

「季節のビール」もある。
ベアレンとは逆に、これら
のビールが飲めるのは盛岡
市内でのステラモンテだ
けであるので、その意味で
は貴重である。

民話の里として有名な
遠野市。ホップ生産日本
一の岩手県の中でも最も
多い生産量を誇るのがこ
の遠野市である。ここに
は「遠野麦酒ZUMONA
(ズモナビール)」(<http://www.v-toono.jp/kamihiei/zumona.html>)がある。遠
野の民話は全て「むがしむ
がしあつたずもな」という
言葉で始まるが、「ズモナ
ビール」の「ズモナ」とは、
この語尾の「ずもな」から
取った名前である。醸造し
ているのは「國華の薫」な
どの遠野の地酒を醸造して
いる上閉伊酒造である。ピ
ルスナーとヴァイツェン

「ズモナビール」は非常に
種類が多い。定番のビール
だけでなくヴァイツェン、イ
ギリススタイルのペールエ
ール、それに三陸の牡蠣の
身と殻を使ったオイスター
スタウト、レッドエール、
インディアン・ペールエ
ール(通常のペールエールよ
り苦みが強い)、パッション

フルーツを使ったパッショ
ンエールがあり、これに季
節限定のビールがあるが、そ
の中には山椒の実を加えた
「ジャパニーズハーブエール
SANSHO」や干し柿か
ら取った酵母を使った「自
然発酵ビール」、地場産麦芽
を100%使った「こはるビー
ル」など個性的なビールが
揃う。他に、贈答品限定と
してクチナシ色素を使った
青色の「サムシングブルー」
もあり、結婚式などで人気
である。いろいろなチャレ
ンジをしていることが窺え
るラインナップである。

蔵元がつくる 地ビールが多い岩手県

これらのビールは醸造所
の敷地内にある「蔵元レス
トランせきのいち」(一関市
田村町5-42、TEL:0191-
21-5566)で味わえる。また
このいわて蔵ビールや遠野
麦酒ZUMONAは、一関
の全国地ビールフェスティ
バルや仙台のオクトーバー
フェストにも出展している
ので、地ビール好きにとつ
ては結構お馴染みのビール
と言えるかもしれない。

最後の一つは岩手県内屈
指の豪雪地帯、旧沢内村(現
西和賀町)にある「銀河
高原ビール」(<http://www.gingakogenbeer.com/>)で
ある。九六年に醸造を開始
した、東北では老舗の地ビ
ールである。銀河高原ビー
ルは東北の地ビールの中で
屈指の生産量を誇っている。
生産量を公開していない醸

造所もあるので断言はでき
ないが、東北のみならず、
全国でも一二を争う生産
規模であることは間違いの
ないところである。そのお
陰で、缶に入った銀河高原
ビールは全国のスーパーや
酒屋チェーンなどで見掛け
ることも多い。値段も1缶
二〇〇円台で地ビールの中
では比較的安価であること
もあり、私の日々の晩酌に
よく利用されるビールであ
る(笑)。

もちろん、安いだけでは
ない。地ビール醸造所の中
でドイツをお手本にしたと
ころは、麦芽とホップと酵
母と水以外の原料は使わな
いというドイツの「ビール
純粋令」に忠実に従ってビ
ール作りをしているところ
が多いが、銀河高原ビール
も、麦芽100%、そして酵母
無濾過を貫いたビールを作
っている。別にビール純粋
令を守っているビールがい
いビール、守っていないビ
ールが悪いビールというこ
とではなく、要はスタイル
の違いというだけの話なの
だが、普通、オレンジビー
ルやコリアンダーなどを加
えて柑橘系の香りと味を
出すベルギースタイルの
「白ビール」
であったも、
銀河高原ビ
ールはドイ
ツ流に麦芽
100%で作っ
てしまう。
ビール純粋
令の制約を

逆手に取って、それを活か
して銀河高原ビールらしさ
に変えてしまう、このよう
な姿勢がお気に入りの理由
の一つである。

定番は何と言ってもヴァ
イツェンで、他にペールエ
ールもあるが、このペール
エールもヴァイツェンのよ
うに濁りがあるところが銀
河高原ビールらしいところ
である。よく飲まれている
ビールにはヴァイツェンと
いうスタイルもあるのだと
いうことを世に知らしめた
一番の立役者が銀河高原ビ
ールであると思う。醸造所
に隣接している「沢内銀河
高原ホテル」(和賀郡西和賀
町沢内字貝沢3地割647-1、
TEL019785-5311)で出
来立てが飲める他、仙台駅
近くにある「夕焼け麦酒園」
(仙台市青葉区花京院1-2
20、TEL022-262-5573)
でも写真のような樽生が味
わかる。

こうして見てきたように、
岩手県内には実に個性的な
地ビール醸造所が、それも
五つももある。足を運んだ折
にはぜひ複数の地ビールを
味わってみていただきたい
ものである。

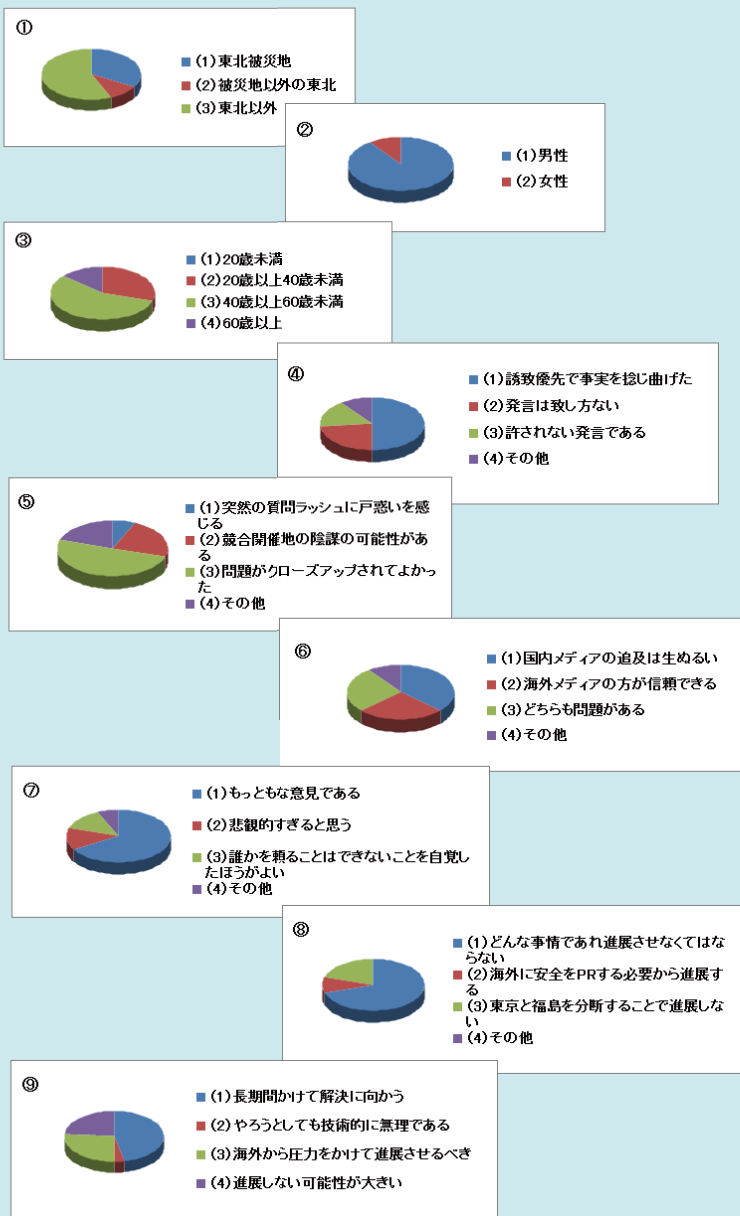
「白ビール」
であったも、
銀河高原ビ
ールはドイ
ツ流に麦芽
100%で作っ
てしまう。
ビール純粋
令の制約を



銀河高原ビール

第16号 ネットアンケート集計結果 福島第一原発問題と2020年東京オリンピック

No.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	10
	(2) 被災地以外の東北	3
	(3) 東北以外	17
②	性別	
	(1) 男性	27
	(2) 女性	3
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	9
	(3) 40歳以上60歳未満	17
	(4) 60歳以上	4
④	総理の汚染水完全コントロール発言について	
	(1) 誘致優先で事実を捻じ曲げた	15
	(2) 発言は致し方ない	7
	(3) 許されない発言である	5
	(4) その他	3
⑤	海外メディアの追及について	
	(1) 突然の質問ラッシュに戸惑いを感じる	2
	(2) 競合開催地の陰謀の可能性がある	7
	(3) 問題がクローズアップされてよかった	15
	(4) その他	6
⑥	国内メディアと海外メディア比較	
	(1) 国内メディアの追及は生ぬるい	11
	(2) 海外メディアの方が信頼できる	8
	(3) どちらも問題がある	8
	(4) その他	3
⑦	福島在住者からの不満の声に対して	
	(1) もっともな意見である	20
	(2) 悲観的すぎると思う	4
	(3) 誰かを頼ることはできないことを自覚したほうがよい	4
	(4) その他	2
⑧	汚染水問題は進展するか?	
	(1) どんな事情であれ進展させなくてはならない	21
	(2) 海外に安全をPRする必要から進展する	3
	(3) 東京と福島を分断することで進展しない	6
	(4) その他	0
⑨	福島第一原発放射能問題の解決	
	(1) 長期間かけて解決に向かう	14
	(2) やろうとしても技術的に無理である	1
	(3) 海外から圧力をかけて進展させるべき	8
	(4) 進展しない可能性が大きい	7



今回は「福島第一原発問題と2020年東京オリンピック」。誘致委員プレゼンでは海外メディアの質問攻勢で世界に福島原発問題が発信されました。回答者はこれまでの最高の30名。「総理の汚染水完全コントロール発言」は、「誘致優先で事実を捻じ曲げた」が50%、「発言は致し方ない」が約23・3%、「許されない発言」が約16・7%。「海外メディアの追及」は、「問題がクローズアップされてよかった」が50%、約23・3%が「競合開催地の陰謀の可能性あり」。「国内メディアと海外メディア比較」は「国内メディアの追及は生ぬるい」が約36・7%、「海外メディアの方が信頼できる」が約26・7%。同数で約26・7%。「福島在住者からの不満の声」については「もっともな意見」が約66・7%。「悲観的すぎ」、「誰かを頼ることはできないことを自覚したほうがよい」が同数で約13・3%ずつ。「汚染水問題は進展か?」は「どんな事情であれ進展させなくてはならない」が70%、「東京と福島を分断することで進展しない」が20%。「福島第一原発放射能問題の解決」は「長期間かけて解決に向かう」が約46・7%、「海外から圧力をかけて進展させるべき」が約26・7%、「進展しない可能性が大きい」が約23・3%。非常に重苦しい集計結果となりました。

編集後記

先月末、「埋もれた東北文化を掘り起こす旅」のため北東北取材を敢行した。縄文遺跡として有名な大湯ストーンサークル、パワースポットとして有名な黒又山(通称クローマント)、創建が大同二年と言われている十和田神社、奥入瀬渓流などの取材を一日で足早に巡るといって強行軍だった。

取材以来、東北超古代、古代の文化探求にのめりこんでいる。誰かに、ひよつとしたらその地に潜む何者かに強烈に導かれているように感じるほどだ。

読めそうもないほど本もたくさん買い込んだ。さらに毎日注文は続いている。読書するうち、斬新な超古代史や古代史研究は在野の研究者たちが切り開いてきたことも分かってきた。みな独学であり、フィールドワークも半端ではない。すごいエネルギー!

なかでも吉野裕子氏、谷川健一氏、吉野氏などは、専業主婦から一念発起、大学に入り、この分野の研究が本格化したのは五〇代半ばという。その後この分野の大家として、さまざまな後続の研究者たちにより氏の文献が引用されている。

あらためて、何か始めるのに遅いということはないことを教えられた。筆者も還暦を過ぎてからの趣味三昧。ぜひ見習っていききたいものだと思う。

革物屋(かわもんや) WEB完全リニューアル (WEBを移動しました)

<http://www.birthday-press.com/> (バースデイプレス) → 「小物のカテゴリー」 → 「レザー」

<p>ミニバッグ Handy Second</p>  <p>持っていたくなる革バッグ。インナーバッグとしてもお使いいただけるセカンドバッグ。革は薄めの柔らかなものを使用し、手触り感を重視いたしました。内側は耐久性のある光沢ナイロン製布を使用。</p>	<p>ミニバッグ Tiny Dice</p>  <p>用途ご自由の四角いケース。重量40gと比較的軽量の製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバッグに吊り下げていただくもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。</p>	<p>ミニバッグ Tiny Log</p>  <p>用途ご自由のまるいケース。重量40gと比較的軽量の製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバッグに吊り下げていただくもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。</p>
<p>モバイルバッグ Beans L</p>  <p>レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バッグは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バッグはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバッグも多くはなかったようです。Beans Lは、その両方でご満足いただけるバッグです。</p>	<p>モバイルバッグ Beans S</p>  <p>レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バッグは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バッグはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバッグも多くはなかったようです。Beans Sは、その両方でご満足いただけるバッグです。</p>	<p>モバイルバッグ Handy Pouch</p>  <p>あなたにお供するポーチ。持ち運び可能で、デスクやテーブルに置いて開け閉めできるポーチ。上下蓋部分の内側にスポンジを挟み込んでおりますので、モバイル端末機器の付属品の収納にもお使いいただけます。</p>